

上野幌・青葉地域

小規模校検討委員会ニュース

上野幌・青葉地域小規模校検討委員会では、上野幌・青葉地域4小学校の学校規模の適正化を進めるうえでの諸課題について検討しております。検討状況については、「検討委員会ニュース」として、随時保護者や地域住民の皆様にお知らせしてまいります。

2015.10.13 第6号

発行：上野幌・青葉地域小規模校検討委員会

第6回検討委員会 について

8月26日(水)午後1時から、上野幌小学校で第6回の検討委員会を開催しました。

まず事務局から、個別に寄せられた意見の報告がありました。その後、想定スケジュールや統合パターン案などについて検討を行いました。

報告事項

個別に寄せられた 意見について

第5回検討委員会以降、メール、FAX、電話で各1件ずつ計3件のご意見が事務局に寄せられており、その報告がありました。

- 学校の統合に関して一番に考慮すべきことは「子どもたちにとってよりよい環境は何なのか」という未来に向かって考えることではないか。地域の方には、自分の感情や意味のない歴史に囚われることなく、子どもたちの将来のためを思った有意義な意見を出して欲しい。
- あまり検討が進んでいない。今後のスケジュールについて情報提供して欲しい。
(事務局回答)
現段階では統合時期等は決定していない旨を、回答しています。
(平成27年7月 メール)
- 4校を2校として具体的な地区名や学校名が挙がっていたにもかかわらず、その後進展がみられない。方向性が見えてきたら具体化してほしい。
- 青葉小学校は通学路が長く、広い地域を抱えていて、通学は小さな子どもには負担であり、安全性が低下することから、同小学校を廃校にするのは反対である。
- 青葉地区は高齢者の割合が増加しているが、高齢者の活動の場のひとつとして青葉小学校があり、教育だけでなく地域の財産としても必要な公共施設である。
- 青葉地区は子どもがいる世代が微増していることに加え、青葉町1、2丁目の子どもが青葉小学校に通学すれば、児童数がさらに増えるのではないか。
(平成27年8月 ファックス)

- 周りの未就学の保護者は、自分たちが関係のないところで検討を進められ方針が決まることに対して不満や不安を持っている。
- 未就学児の保護者は代表者を出し意見を直接述べることができないので、委員の皆さんには、より丁寧な議論を心掛けてほしい。

(平成 27 年 8 月 電話)

■ 検討事項について

第 6 回検討委員会では、3 校を 1 校に統合するパターン案の検討が終わっていないとのこと意見があったことから、このパターン案に関する第 4 回検討委員会で使用した資料を基に説明がありました。また、過去に実施した統合校のスケジュールを基に、施設改修の期間や開校時期などについてのスケジュールのイメージの説明がありました。

■ 統合パターン案の検討について

第 4 回の検討委員会で検討した 3 校を 1 校に統合するパターン案について、児童数と学級数の数値を時点修正した資料や、このパターン案について出されていたご意見などを検討委員会ニュースから抜粋した資料で説明がありました。

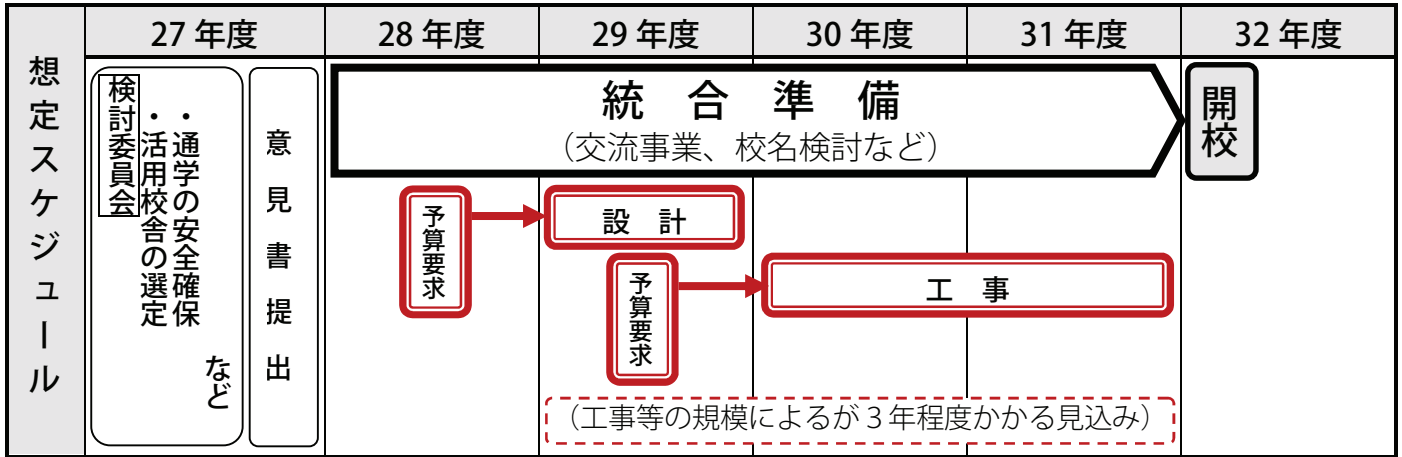
■ 出されていたご意見（検討委員会ニュース第 4 号より）

- ・多くの保護者が 3 校を 1 校にするパターン案には不安を感じているのではないか。
- ・3 校を 1 校にするパターン案だと、青葉小学校を今回の議論からはずすこととなり、小規模校の状態が続くこととなる。仮に 3 校の統合校に上野幌西小学校の校舎を活用した場合などでは、青葉小学校は将来的に廃校することが決まってしまうのではないか。
- ・将来的に安定した学級数を確保できる 3 校ないしは 4 校を 1 校にするパターン案が良いと考えていたが、中学校での別れが大きなネックになることから、それが解消されないのであれば 4 校を 2 校にするパターン案が望ましい。
- ・4 校を 1 校もしくは 3 校を 1 校に統合した場合、中学校に入学の際に友達と離れることになってしまう。高校や大学は仕方ないにしても、小学校で培った人間関係がなくなるのは、児童からすると寂しい気持ちが大いと思う。
- ・今後の検討に際して、中学校での別れの問題は大きい。将来的には中学校の校区変更も念頭に置いて議論していくべきだが、この点で 3 校を 1 校にするパターン案は拙速である。
- ・4 校を 1 校もしくは 3 校を 1 校に統合した場合、あえて校区の端の学校を使って、多くの児童に国道 274 号を渡らせることには心理的に抵抗がある。

■今後のスケジュールのイメージについて

個々に寄せられたご意見の中でわかりづらいとのご指摘をいただいたことから、改めて施設改修や開校時期などを含めたスケジュールのイメージについて説明がありました。

■仮に平成 27 年度末までに活用する校舎についての意見書を教育委員会に提出した場合



- ・平成 28 年度に財政の担当部門に設計費を予算要求
 - ・設計費の予算が認められれば平成 29 年度に設計に着手
 - ・平成 29 年度に財政の担当部門に工事費の予算要求
 - ・工事費の予算が認められれば平成 30 年度から工事に着手
 - ・新しい学校の開校時期は統合パターンや改修工事の規模によって前後するが、平成 32 年度あたりとなる見込み
 - ・並行して統合準備（交流事業・校名検討など）開始
- ※活用する校舎が決まらなかったり意見書の提出が遅れたり予算が認められない場合には、開校年度が遅れていきます。

委員から寄せられた 主な意見

統合パターンや今後のスケジュールのイメージに関して、委員から以下のような主なご意見、ご質問がありました。

<「個別に寄せられた意見」の検討について>

- メールでの意見にもあったが、地域性の違いや感情を検討の場に持ち込むべきではないのではないか。
- メールとファックスの件は、以前から議論の中で重視してきたが、改めて指摘を受けるということは、ニュースでうまく伝えきれていないからではないか。
- 検討を進めていく中で、いろいろな話が出てくるのは当然であり、検討が「後戻り」しているとの認識はない。この検討会の議論をうまく伝えられていないのではないか。
- 幅広く論議すべきといった流れから、まずは4校を2校にする組合せがあり、その検討の中から、4校を1校、あるいは3校と1校といった意見が出てきた。このあたりの流れをニュースなどで具体的に説明すべきではないか。

- 委員の交代などがあったことから、新しいメンバー間で共通認識を図るためにはある程度回数を重ねる必要があるのではないかと。
- 根強い地域性があることをあまり知らなかったが、仮に統合によって、地域の見守りや連携がきちんと機能しなくなるのなら、保護者としては不安である。

<統合パターン案などの検討について>

- 校区が広範囲になることに対する不安がある。子どもたちの生活圏内のことを考えると、できるだけ近い学校がまとまったほうが望ましい。
- 保護者の立場からすると6年間通えること、なるべく近い小学校であること、その中でコミュニケーションがとれて中学校も一緒に行けることが望ましい。
- 仮に自分が未就学児を抱えていて、近い学校が残るなら住み続ける、学校が遠いなら引っ越したいといった切実な思いがあるはず。
- 小中一貫校が普及していくのであれば、小学校と中学校の校区を合わせるといった考え方もあるのではないかと。
- 検討を行っていくにあたって、中学校区のことも見直す必要があるのではないかと。
- 仮に上野幌小学校と青葉小学校を統合したとしても、将来的には児童数の減少により現在の4校が1校になるものと捉えておくべきで、そのためには中学校を含めた検討が必要である。

(事務局回答)

中学校も含めた検討をするためには、並行して中学校側の意見を聞く必要があるため、現段階では難しいと考えております。

- 今4つある小学校を2つにするのか、1つにするのかの話に終始してしまうことから、もっと近隣を含めて検討すべきではないかと。
- 現時点では対象になっていない近隣の校区について、ここで検討の対象にするのはおかしいのではないかと。
- 4校を1校とし、中間地点に小中一貫校を作ることが望ましいと思うが、今後の地区別の人口増加や再開発などを踏まえると、3校を1校、青葉小学校を独自に残すといった案も出てくるのではないかと。
- 青葉小学校については、これまでの議論とも関連して、やはり単独での存続は難しいのではないかと。
- 仮に4校を2校にする議論を進めるのであれば、今後さらに減少が見込まれる開校時点での児童数や中学校の生徒数などを見据えておくべきである。

- 小学校で中くらいの規模、次に中学校の大人数といったように次第に慣れていくのが無難かと思う。
- 部活など、現在の中学校の規模がベストとは思わないが、今の子どもたちが負担なくやっていくためには、3校を1校などではなく、4校を2校にする組合せで進めていくべきではないか。
- 4校を2校にする組合せで決まれば、近隣の共栄小学校などとの調整も考えられるが、決まらないから話が一向に進まない。また次回も同じような話し合いに終始するのではないか。
- 4校を2校にする組合せで進めることが最も進めやすいのはわかるが、統合・開校時点で既に小規模な状態に陥り、例えば新入生が在籍中にまた統合の検討が始まるようなことになると、とても不安ではないか。
- 結論を急ぐなら4校を2校にする組合せとなるが、地域に昔から住んでいる方々にとっては不安も大きい。これから先も統合がついて回るのなら地域も不安定になることから、4校を1校といった統合パターン案でも構わないので、きちんと決めないと、保護者にもストレスがたまる。
- 青葉小学校もしばらくは各学年2クラスを維持できると思うが、将来的には4校を1校も考慮しつつ、4校を2校にする組合せで議論していくべきではないか。
- 地域にそれぞれ歴史などがあり、前は3校を1校にする組合せが有力と感じていたが、統合のしやすさを考えると4校を2校であっても仕方ないのではないか。
- 中学校進学時の別れなど、すべてを一度に解決することはできないのだから、今の段階では、小学校の統合を検討し、中学校については改めて考えるしかないのではないか。
- 7年前のもみじ台地域のニュースを見返すと、現時点では統合前の予想よりも児童数が少なくなっていることに注目して議論すべきである。
- 青葉地区を守ろうとする立場からすると、どのような統合パターン案であっても検討が進まない。PTAや教育委員会だけでなく、厚別区役所なども巻き込まないと結論が出ないのではないか。
- 地域には「校名」を残したいといった思いがあるが、統合後は校名が全く新しくなるのか。

(事務局回答)

今までの事例では、新しい小学校として開校していることから校名についても新しくしていますが、そうしなければならぬわけではありません。

<今後の進め方、スケジュールのイメージ等について>

- 個人的には、児童数が多ければ多いほど様々な経験ができて望ましいと考えていることから、2校であれ3校であれ検討が進めばいいと思うが、開校が早くて平成32年となるなら、さらに児童数減少が進行してしまうと思うので、考えが混乱してしまう。
- 既存の校舎を利用し、改修等をしない場合にはもっと早く開校になるのか、どうしても平成32年になるのか確認したい。
(事務局回答)
既存校舎を活用した場合は、教室内の配置換えなどの工事で1年、その設計で1年となるため最短でも2年程度かかることが見込まれ、使用する校舎によっては3年程度かかることも考えられます。
- 前回検討の際には3校を1校といった意見も多かったことから、こうした意見を丁寧に取り扱うべきであり、検討を急ぐ必要もあるが、今回は組合せを決めるなど、切りよく進めて欲しい。
- 地域とのつながりもあることから、統合は小学校だけの問題ではないし、統合パターン案についてもそれぞれ良い面も悪い面もあるが、時期的には「ゴーサイン」を出す必要があるのではないかと。

■事務局からの補足説明
について

<統合の検討について>

- 教育委員会として、4校を2校といった特定の組合せに固執するものではありません。
- 仮に4校を2校に統合した後、さらに児童数が減少したとしても、すぐに再検討を行うことは、現時点では考えておりません。

<小中一貫校について>

- 文部科学省からの今後の通知等を見ながら、検討していく予定です。

■第7回の検討委員会
について

第7回の検討委員会は、10月下旬頃の開催を予定しており、これまで検討してきた各統合パターン案について再検討を行います。

■ **ご意見・ご質問は、下記の検討委員会事務局までお寄せ下さい** ■

■ **上野幌・青葉地域 小規模校検討委員会 事務局** ■

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課 (学校規模適正化担当)
〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V北2条ビル
T E L 011-211-3836 / F A X 011-211-3837
E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp

※ この検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載予定です。
<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>